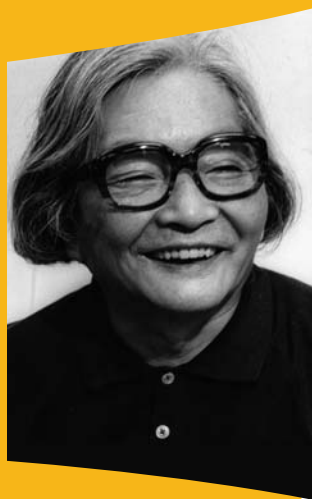


戦中・戦後の 戦病者

～二度の除隊を経て
花森安治のあゆみ～



平成25年 (2013年)

3.20 [水] ⇒ 5.12 [日]



SHOKEI-KAN
しょうけい館

戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers etc.

入館無料

会 場	しょうけい館1階
開館時間	10:00～17:30 (入館は17:00まで)
休館日	毎週月曜日 (祝日は開館)、4/30 (火)

戦中・戦後の戦病者

二度の除隊を経て花森安治のあゆみ

一口に戦傷病者といっても、重症者から軽症者まで様々な方がいます。なかでも戦病者は、外見上判断できる負傷ではないため、理解されにくいのが現状です。しかし戦前、肺結核は「不治の病」として恐れられていました。

本展では、雑誌『暮しの手帖』の編集長であった花森安治（一九二〇七八）を中心に、軍隊勤務が原因で肺結核を発病した戦病者の生き様を紹介します。花森は、昭和十二年に東京帝国大学を卒業して化粧品会社へ就職。翌年一月十日、現役兵として入営、歩兵第七十聯隊第三機関銃隊に配属され満洲へ派遣されました。三江省依蘭の警備勤務の間、十四年二月九日、月例身体検査にて胸部の異常が見つかり陸軍病院へ入院、数度の転送後、肺結核と診断されて内地還送されました。最終的に大阪陸軍病院深山分院へ入院、同十五年一月二十日現役免除となりました。二年間の軍隊生活の約半分を、入院に費やしています。退院後は以前の会社に復帰、その後、大政翼賛会宣伝部へ招かれ、国策広告や講演活動などを手がけました。同十八年四月二日に召集されますが、二十二日には召集解除となり、その後終戦を迎えます。戦後は、『暮しの手帖』の編集長として活躍しながら著書も刊行し、本の装釘も手がける等、肺結核であったことを忘れさせるような様々な活動を行っていました。また、軍隊勤務が原因で肺結核を発病し、戦後も苦労された戦病者の証言映像（当館制作）と関連資料も展示します。ぜひご覧ください。

戦病者映像関連資料

戦病者として生きる	上本 昭夫
海軍看護兵 若き日の記憶	後藤 誠次
シベリア抑留、そして結核...	崎野 保己 富恵
衛生兵ゆえの感染	築山 英二
熱砂の抑留生活	馬場 勝彦
すべてめぐり合わせと思って	松尾 正輔

『暮しの手帖』編集長として活躍



『一変五厘の旗』



大政翼賛会
実践局宣伝部へ



旧制松江高校から
広告デザイナー業へ
(後列右から三番目)

従軍手帖

関連イベント

1 花森安治長女 土井藍生 講演会 「父 花森安治の思い出話」

ご家族からみた花森安治像を、
長女の立場からお話し頂きます。(無料)

日時 4月20日(土) 14:00~15:00

場所 当館1階証言映像シアター

定員 先着30名(電話による事前申し込みが必要です)

2 学芸員による展示解説

学芸員が企画展の展示解説をします。
(当日参加自由・無料)

日時 3月23日(土)、4月13日(土)、5月4日(土)
14:00~14:30

しょうけい館

当館は、戦傷病者とそのご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。



住所 〒102-0074 東京都千代田区
九段南1-5-13 ツカキスクエア 九段下
TEL 03(3234)7821 FAX 03(3234)7826
URL www.shokeikan.go.jp

地下鉄

東西線、半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅6番出口から徒歩1分

都営バス

高71系統(九段下~高田馬場駅)
「九段下」停留所から徒歩1分

※駐車場はありません。公共交通機関
をご利用ください。

※車椅子で来館される場合は
館のA入口をご利用ください。

